

牛久の偉人図鑑①

牛久の歴史や文化の発展に功績を残した偉人をご紹介します

市制施行40周年を記念し
隔月連載スタート(全5回)！
イラスト制作は市内5校の
中学校美術部生徒が順番に
担当します！

人物像

何事にもめげない！へこたれない！

水害で大規模な被害を受けても、火災で店舗が2回焼失してしまっても、諦めず前進し続ける不屈の精神の持ち主です。

ゆかりの人物

幕末から明治にかけて活躍した剣術家・山岡鉄舟との関わり



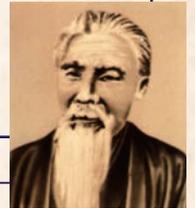
山岡鉄舟は幕末の名剣士。安兵衛の妻ぶんの弟貞助の剣術の師匠であったことから安兵衛と交流がありました。桜あんぱんの献上を記念し、「木村家」と大書した扁額を木村屋に送り、後にその書は店の看板にもなっています。



イラスト：あかり

Kimura Yasube

木村 安兵衛



基本データ

【生没年】文化14年(1817)～
明治22年(1889)

【出身地】常陸国田宮村
(現・牛久市田宮町)

【主な業績】木村屋總本店の創業者。日本で初めてあんぱんを作り、日本にパン文化を広めた。

【ゆかりのスポット】浅草 東禅寺
(東京都台東区東浅草2-12-13)

ここには木村家の墓があり、安兵衛と妻・ぶんの銅像があります。



ゆかりのスポット

木村屋の社(龍ヶ崎市川原代町)



龍ヶ崎市川原代町には木村屋4代目・木村栄三郎が建立した社が今も建っています。

ゆかりのスポット

浅草 東禅寺

(東京都台東区東浅草2-12-13)

ここには木村家の墓があり、安兵衛と妻・ぶんの銅像があります。

日本製パン業界のバイオニア

牛久から東京へ

木村安兵衛(以下、安兵衛)は文化14年、現在の牛久市田宮町の農家、長岡家の次男として生まれました。のちに龍ヶ崎市川原代町で農業を営む木村家の長女「ぶん」の婿養子となります。しかし、2度の水害に遭い、農業を続けることに見切りをつけ、妻と息子夫婦と共に東京に行くことを決意します。

「パン」との出会い、開業

東京に来た安兵衛は、職業訓練所で事務職に就き、そこで長崎のオランダ屋敷でパン焼きをしていた職人と知り合い、「パン」に出会います。「パン」に興味を持った安兵衛はこれを日本中に広めようと、決意。明治2年、パン屋「文英堂」を開業しました。ところが、開業後まもなく「文英堂」は火事で焼失。翌年には銀座5丁目に店舗を移し、屋号も「木村屋」に改めましたが、明治5年には再び移転先も火事で焼失してしまいます。それでも安兵衛は「パン」への思いを断ち切らず、明治7年に銀座4丁目「木村屋」として本格的に業務を再開しました。

日本人に好まれるパンの発明

当時、パンは小麦粉などにホップを混ぜて自然発酵させた生地で作っていたため、とても固く、日本人には好まれるものではありませんでした。そこで安兵衛は研究を重ね、饅

ゆかりのスポット

株式会社木村家

(東京都中央区銀座4-5-7)

明治2年に木村安兵衛が創業した150年以上続く老舗パン店。現在も銀座をはじめ各地で伝統の味を守り続けています。



「桜あんぱん」の味が全国に広がるのでした。

あんぱんが全国に広まる

あんぱんがさらに全国に知れ渡る立役者となったのは、安兵衛と交流のあった「山岡鉄舟」です。山岡鉄舟は明治天皇の侍従であったため、安兵衛のあんぱん献上が実現しました。このとき献上されたのが、表面にくぼみをつくり山桜の塩漬けを入れた「桜あんぱん」です。このあんぱんの酒種の香り、あんこの甘味、桜の塩味の調和のとれた味を明治天皇は大変賞賛されました。これがきっかけで、木村

